

平成29年度学校評価総括評価表

重点課題	重点目標	自己評価		学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度の課題と 今後の改善方策
		評価指標と活動計画	評価		
		評価指標	評価指標の達成度	評定	総合評価
1 学校運営の充実	<p>(全体レベル)</p> <p>1) 教職員研修の充実を図ることで教職員の資質向上に努め、学校全体の教育力を向上させる。</p> <p>2) 教育環境を整備し、地域や社会の要請を視野に入れた特色ある学校づくりを推進する。</p> <p>3) 広報活動を充実させ、地域に根ざした開かれた学校づくりを推進する。</p> <p>(下位組織レベル)</p> <p>①各種教職員研修の充実</p> <p>①協働精神に満ちた教職員の組織づくり</p> <p>①教職員間の情報活用能力と情報モラルの育成</p> <p>②特色ある学校づくりの推進</p> <p>②学校開放・公開、地域貢献ボランティア活動</p> <p>③マスメディアを活用した広報やホームページの充実、学校行事の公開等、積極的な情報発信</p>	<p>①-1 各種教職員研修の実施 年10回以上</p> <p>①-2 職員共有サーバーの利用、資産持ち出し管理シートの活用に関するアンケートの実施 100%</p> <p>①-3 教員間の協力度を計るアンケートの実施 90%以上</p> <p>①-4 情報セキュリティに関する規約の遵守並びに教職員全体での意思統一ウイルスチェック 年6回以上</p>	<p>①-1 職員研修 年7回実施</p> <p>①-2 管理シート活用職員アンケート 100%</p> <p>①-3 共通理解、風通しの良さ97.8%</p> <p>①-4 ウィルスチェック 3回実施</p>	B	B (所 見)
		<p>②-1 地域に向けた開放講座の実施 年5回以上</p> <p>②-2 地域と連携した取り組みや地域の保全活動の実施 年20回以上</p> <p>③-1 学校ホームページの更新 年50回</p> <p>③-2 体験入学の満足度を計るアンケートの実施(保護者を含む) 90%以上</p>	<p>②-1 9月以降 2講座3回実施</p> <p>②-2 部活動や専門教育による地域貢献活動 27回実施</p> <p>③-1 学校ホームページ更新 アクセス数 77回 158,593件</p> <p>③-2 生徒満足度 97% 保護者・職員満足度 97% 自ら希望して参加 76%</p>		
		<p>活動計画</p> <p>①-1 コンプライアンス、特別な支援を必要とする生徒への対応などに関する研修会を実施する。</p> <p>①-2 職員共有サーバーを活用し、校務の効率化を図るとともに、資産管理シートの活用の徹底を図る。</p> <p>①-3 「報告・連絡・相談」の徹底を図り、教職員間の共通理解を深める。</p> <p>①-4 情報セキュリティポリシーを遵守し、情報漏洩防止を図る。</p> <p>②-1 農業科・商業科の特色を生かした公開講座等を実施する。</p> <p>②-2 アグリクラブ・ビジネス研究部等の部活動や専門教育を通してボランティア活動を推進する。</p> <p>③-1 保護者や地域に、本校の特色や学習活動などを積極的かつリアルタイムな情報を提供できるよう、ホームページの更新や充実を図る。</p> <p>③-2 体験入学において、本校の特色ある学習内容に関する講座を開講する。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>①-1 コンプライアンス研修3回、教育相談ケース会議1回、主権者教育研修1回、特別支援教育1回、メンタルヘルス研修1回</p> <p>①-2 各課の資料作成等に利用し、時間短縮等校務の効率化が図れた。</p> <p>①-3 職員の組織的対応により生徒の問題行動や保護者・地域への対応など適切に対応できた。</p> <p>①-4 職員会議等を利用し、情報資産等の管理に関する研修を行った。</p> <p>②-1 9月から実施したが、人数が集まらず中止になった講座があった。 藍染め体験2回(9/23,10/1)17名、イチゴジャムづくり体験1回(9/30)9名</p> <p>②-2 押し花アート講習会5回(延31名参加) 野菜収穫体験1回(10名参加) 法輪寺への接待1回(2名参加) はちみつ祭り1回(10名参加) 鴨島駅前の花壇整備1回(20名参加) 子どもゆめまつり2回(延9名参加)等</p> <p>③-1 ホームページは各行事の状況や保護者等に伝えなければならないことを意識し、その都度リアルタイムで発信している。</p> <p>③-2 野菜(20名参加) 押し花(10名参加) 藍染め(13名参加) 食品製造(12名参加) 簿記入門(40名参加) プログラミング入門(47名参加) 接客実習(40名参加) (中学生182名、保護者31名、引率教員27名参加)</p>	A	
		<p>②-1 農業科・商業科の特色を生かした公開講座等を実施する。</p> <p>②-2 アグリクラブ・ビジネス研究部等の部活動や専門教育を通してボランティア活動を推進する。</p> <p>③-1 保護者や地域に、本校の特色や学習活動などを積極的かつリアルタイムな情報を提供できるよう、ホームページの更新や充実を図る。</p> <p>③-2 体験入学において、本校の特色ある学習内容に関する講座を開講する。</p>	<p>②-1 9月以降 2講座3回実施</p> <p>②-2 部活動や専門教育による地域貢献活動 27回実施</p> <p>③-1 学校ホームページ更新 アクセス数 77回 158,593件</p> <p>③-2 生徒満足度 97% 保護者・職員満足度 97% 自ら希望して参加 76%</p>		A

平成29年度学校評価総括評価表

重点課題	重点目標	自己評価		学校関係者評価		次年度の課題と今後の改善方策
		評価指標と活動計画	評価指標の達成度	学校関係者の意見	学校関係者の意見	
2 確かな学力の育成	<p>(全体レベル)</p> <p>1) 基礎基本の定着を図り、自己教育力を高める。</p> <p>2) 個性の伸張を図り、専門的な知識・技術を習得させ、スペシャリストを育成する。</p> <p>3) 主権者意識を高める教育を推進する。</p> <p>(下位組織レベル)</p> <p>① 基礎学力の向上に向けた取り組み</p> <p>① 学校関係者評価アンケートの実施</p> <p>① 読書習慣の定着</p> <p>① 図書館の魅力の向上</p> <p>② 各種資格取得の奨励と補習体制の構築による合格率の向上</p> <p>② 体験的・実践的な農業・商業教育の推進</p> <p>③ 公民科をはじめとした各教科の授業やホームルーム活動、学校行事等の実施</p>	<p>評価指標</p> <p>①-1 学力向上に関する職員研修・教科会の実施 各学期1回以上</p> <p>①-2 学校評価アンケート</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒授業満足度 80%以上 職員授業充実度 80%以上 保護者学力向上・学習内容充実度 70%以上 基礎学力に向けた取り組み満足度 80%以上 <p>①-3 校内読書会の実施回数と参加者数</p> <p>年6回 120人</p> <p>①-4 貸出冊数 1,500冊</p> <p>①-5 読書感想文の応募数 360人</p> <p>①-6 図書館だよりの発行回数 年10回</p> <p>①-7 図書館蔵書の満足度 90%</p> <p>①-8 図書館入館者数 5,000人</p> <p>①-9 朝読週間の実施回数 年10回</p> <p>①-10 朝読週間生徒満足度 75%以上</p> <p>②-1 【農業】</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本農業技術検定3級 受験率:100% 合格率:90%以上 農業科学科, 生物活用科1年 フラワー装飾・園芸装飾技能検定3級 受験率:100% 合格率:90%以上 生物活用科3年 <p>【商業】</p> <ul style="list-style-type: none"> 全商3級1種目以上 取得者100% 全商2級1種目以上 取得者70% 全商1級1種目以上 取得者30名 全商1級2種目以上 取得者10名 全商1級3種目以上 取得者5名 日商簿記2級合格 取得者1名 <p>②-2 県教育委員会等主催の「特色ある取り組みに関する各種事業」の実施 3事業以上</p> <p>③-1 「政治や選挙への関心が高まった」と回答した生徒 70%以上</p> <p>③-2 主権者教育に関するホームルーム活動や学校行事の実施 年3回以上</p> <p>活動計画</p> <p>①-1 学力向上委員会において取り組みの検証を行う。</p> <p>①-2 生徒・保護者・職員を対象とした学校評価アンケートを実施する。</p> <p>①-3 希望者を募り、校内読書会を実施する。</p> <p>①-5 読書感想文コンクールに応募する。</p> <p>①-7 購入希望図書アンケートを実施する。</p> <p>①-8 図書館を利用した授業等でアンケートを実施する。</p> <p>①-9 毎月1週間朝読週間を実施する。</p> <p>②-1 資格試験の実施に関して、生徒への周知を徹底する。また、取得率向上に向けて、補習体制を強化する。</p> <p>②-2 実施計画書に基づいて実施する。</p> <p>③-1 生徒を対象としたアンケートを実施する。</p> <p>③-2 主権者教育指導計画に基づいて実施する。</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>①-1 職員研修・学力向上委員会 計3回実施</p> <p>①-2 生徒授業満足度 77.7%</p> <ul style="list-style-type: none"> 職員授業充実度 93.5% 保護者学力向上満足度 79.6% 保護者学習内容充実度 81.2% 生徒基礎学力満足度 63.8% 職員基礎学力満足度 100.0% <p>①-3 校内読書会6回実施(155名参加)</p> <p>①-4 貸出冊数 1,142冊</p> <p>①-5 応募数 352人</p> <p>①-6 発行回数 10回発行</p> <p>①-7 蔵書満足度 44.4%</p> <p>①-8 入館者数 3,801人</p> <p>①-9 朝読週間 年10回実施</p> <p>①-10 朝読週間生徒満足度 84.5%</p> <p>②-1 【農業】</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本農業技術検定3級 88.4%(38/43) 日本農業技術検定2級 20.0%(1/5) 777-装飾検定3級 受験率100%(7/7) 合格率100%(7/7) 園芸装飾検定3級 受験率100%(9/9) 合格率88.9%(8/9) <p>【商業】</p> <ul style="list-style-type: none"> 全商3級1種目以上 取得者96.3% 全商2級1種目以上 取得者66.3% 全商1級1種目以上 取得者46名 全商1級2種目以上 取得者4名 全商1級3種目以上 取得者4名 日商簿記2級合格 取得者0名 <p>②-2 「GO!GO!エンカ!」わくわく徳島プロジェクト、「eとくしま高校生マルシェ」、「徳島ならではのものがたり事業」、「TOKUSHIMA消費者教育活性化事業」を計画通り実施</p> <p>③-1 「政治や選挙への関心が高まった」と回答した生徒(アンケート未実施)</p> <p>③-2 主権者教育に関するホームルーム活動や学校行事の実施 3回実施</p> <p>活動計画の実施状況</p> <p>①-1 学力向上委員会を1回開催し、課題テスト等について改善策を話し合った。職員研修として基礎学力診断テストの説明会を1回行った。</p> <p>①-2 全校生徒並びに保護者・教職員にアンケート調査を実施し、状況把握に努めた。</p> <p>①-3 図書館委員会(39名)を中心に、一学期に3回読書会を実施した。</p> <p>①-5 全校生徒に夏休みの課題として、読書感想文を課した。</p> <p>①-7 図書館だよりで知らせ、随時受け付けている。</p> <p>①-8 二学期に実施した。</p> <p>①-9 毎月実施し、84.5%の生徒が充実している」と回答している。</p> <p>②-1 商業科では、電卓検定や簿記検定、情報処理検定の補習を2週間実施した。農業科では園芸装飾の補習を15日実施した。</p> <p>②-2 上記の4事業について、実施計画どおり実施した。</p> <p>③-1 生徒アンケートは実施できなかった。</p> <p>③-2 一学期に出前講座(3年生)と職員研修を実施した。二学期にホームルーム活動を実施したが、三学期の出前講座(2年生)は、日程の都合がつかず実施できなかった。</p>	<p>評定</p> <p>B</p> <p>総合評価</p> <p>B</p> <p>(所見)</p> <ul style="list-style-type: none"> 職員の学力満足度が100%に対し、生徒基礎学力満足度が63.8%と低い。基礎学力診断テストの結果が向上していることを視覚的に提示していく。 全職員が学力向上プランの内容を理解し、組織的、協働的に取り組んでいきたい。 今年度は、図書委員を当番制にして、週に1回は図書館を利用するようにしたが、入館者は目標に1,000人以上も届かなかった。貸出冊数も目標に350冊以上届いていない。 蔵書の満足度は、図書委員→100%、生徒→44.4%と差がある。漫画や雑誌を置けば利用者は増加するかもという意見がある。スマートフォンの普及により、ますます活字離れが進んでいる。 朝読週間では、ほとんどの生徒が前向きに読書を行っており、満足度も前年度と同様80%以上であった。図書館に自分が見たい本があるという生徒が少なくないという内容が望まれる。 農業科の園芸装飾とフラワー装飾は、合格の率が高かった。園芸装飾は、前年度より割合も高かった。園芸装飾の合格率は、前年度より高かった。園芸装飾の合格率は、前年度より高かった。 今後とも様々な事業の指定を受け、学校全体で積極的に取り組む地域に貢献できる学校づくりを推進する。 	<p>学校関係者の意見</p> <p>漢字検定は、年間2回実施し、それぞれ50名程度受検し、合格率は3級で50%程度であるが、級が上がる毎に合格率は上がっている傾向にある。得意な生徒が受検するためと検定を受ける生徒が少なかった。検定を受ける生徒が少なかった。検定を受ける生徒が少なかった。検定を受ける生徒が少なかった。</p> <p>基礎学力診断テスト結果において、D3の生徒がD2に上がるようにしているが、基礎学力が向上しているように思っている。教員は評価しているが、生徒は実力がついたかどうかわからない。今年度は、このままでもよいと思う。今年度は、このままでもよいと思う。今年度は、このままでもよいと思う。</p> <p>教科によっては1学期の問題を学年末に再度解かせたりしている。「実力がついている」と気づくことが大切だと思われる。特に今後必要とされる国語力の強化を図ってほしい。</p> <p>「小さな改善活動」が大事。ちょっとだけやり方を変えてみる。努力した結果に結びつかない人もいる。努力したことが見えるようにしてやるモチベーションも上がるのではないか。</p> <p>有権者の生徒もいると思うが、選挙に関することも学校で教えているのか？</p> <p>主に3年生の現代社会で、選挙権について学び、また、3年生の1学期に市の選挙管理委員会から出前講座を受講している。有権者の生徒もいる。有権者の生徒もいる。有権者の生徒もいる。有権者の生徒もいる。有権者の生徒もいる。</p>	<p>次年度の課題と今後の改善方策</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒と教師の連携を強化し、授業の質を向上させる。 基礎学力の向上を図る。 読書習慣の定着を図る。 資格取得の奨励と補習体制の構築を図る。 主権者教育の推進を図る。

【備考】 評価における「評定」の基準】 A：100%達成 B：80%以上達成 C：80%未満～70%以上達成 D：70%未満～60%以上達成 E：60%未満達成

平成29年度学校評価総括評価表

自己評価		評価		学校関係者評価	次年度の課題と今後の改善方策	
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見		
3 生徒指導の徹底	(全体レベル) 1) 基本的な生活習慣を確立を図り、身だしなみを整え、規範意識や道徳心を高める生徒指導を推進する。 2) 教職員の共通理解を図り、保護者、地域社会との連携を密にし、信頼感に満ちた生徒指導を推進する。 3) 教職員間での情報の共有化を推進する 4) 学校いじめ防止基本方針に基づき、いじめの早期発見・早期対応に努める。 5) いじめ防止等対策委員会の校内体制の運営に努める。 (下位組織レベル) ① 日常的な生活指導による基本的な生活習慣の確立 ① 集会時や校長室・職員室・進路指導室入室時の服装の整備の徹底 ② 保護者、地域社会、関係機関との連携を密にした指導の実践 ③ 教職員間での情報の共有化並びに連携強化 ④ 常時指導と組織的な対応を継続 ⑤ いじめ防止等対策委員会の積極的活用	評価指標 ①-1 校門での登校指導実施率 100% ①-2 校外巡視の実施 週1回以上 ①-3 頭髪服装一斉指導時における違反率 各学年4.5%以下 ①-4 ネクタイ・リボン・靴下・第一ボタンの整備の徹底 100% ①-5 道徳教育の充実 LHR年3回実施 ②-1 生徒指導委員会の決定事項・検討事項の教職員への伝達の徹底 随時 ②-2 保護者・地域住民からの苦情や相談の処理を徹底 随時 ③ 学年別の情報交換会実施 每学期1回 ④ いじめのアンケート実施 年2回 ⑤ いじめ行為等の事案が発生したらすみやかに委員会を開き適切に対応 随時	評価指標の達成度 ①-1 校門での登校指導実施率 100% ①-2 校外巡視の実施 概ね実施 ①-3 頭髪服装一斉指導時の違反率 1年 3.79% 2年 1.96% 3年 1.88% ①-4 ネクタイ・リボン・靴下・第一ボタンの整備の徹底 100% ①-5 道徳教育の充実 LHR 3回実施 ②-1 生徒指導委員会の決定事項・検討事項の教職員への伝達の徹底 随時 ②-2 保護者・地域住民からの苦情や相談の処理を徹底 随時 ③ 学年別の情報交換会(学年会)実施 4回 ④ いじめのアンケート実施 年2回 ⑤ いじめ事案が1件あったが、部活動内限定であったため、開催しなかった。	評定 B B A B B	総合評価 B (所 見) ・生徒のアンケート結果から、挨拶については8割以上、服装・頭髪については9割以上の生徒がきちんとしていると回答している。保護者や教職員についてもほぼ同様の結果が出ているので、今後とも継続して指導していきたい。 ・校外での生徒の行動について、地域住民から苦情の電話が時々ある。今後とも登下校指導を継続し、マナーの向上や交通事故防止に努めていきたい。また、昨年二学期からヘルメット着用のモラルを実施しているが、モラル生徒の着用率は低い。交通安全意識よりファッション性を重視する生徒達に命の大切さを意識させたい。 ・アンケートにも記入せず、教職員への相談もない状態からいじめ事案が発生したことから、教職員の教育相談力を育成する取り組みが必要である。 ・生徒指導上の諸問題は、前年度と同様減少している。遅刻や欠席する生徒についても減少傾向にあるが、学校生活に集中できていない生徒が若干おり、家庭との連携を密にしていなければならない。 ・今後とも教職員の組織力の向上と共通理解を図り、地域住民や近隣中学校から信頼される高校をめざしていく。	・登下校時にイヤホンで音楽を聴きながらやスマートフォンを見ながらの自転車運転は、周りの状況がわからず、事故を起こす危険がある。このことを周知し、指導を徹底していきたい。 ・自転車の並進、ゴミのポイ捨てなど一部の生徒の登下校のマナーが悪く、地域住民からの苦情がある。社会人として必要なマナーとともに、生徒会に協力してもらい、生徒自身で解決できるよう取り組ませる。 ・スマートフォンや携帯電話でのトラブルに巻き込まれないよう学校だけでなく家庭でも協力してもらうため、保護者対象の情報モラル講習会を開催する。 ・生徒との信頼関係構築は、日頃から生徒をしっかり観察することや、毎朝の立哨指導での声かけなど地道な取り組みが重要なので、一部の教育が行うのではなく、すべての教職員が行っていく。 ・今年度、いじめ防止基本方針を新たに策定したので、この方針に従っていじめの早期発見、早期対応を図るため、いじめのアンケート調査とともにカウンセラー室を利用した悩み相談などを行っていく。
		活動計画 ①-1 毎朝校門で頭髪・服装指導を中心とした登校指導を実施する。 ①-2 生徒指導課を中心とし、毎月1回、学校安全の日を実施するとともに登下校時に鴨島駅周辺での立哨指導も週1回は行う。 ①-3 生徒指導課を中心とし、毎月1回、全校集会時に頭髪服装検査を行い、事後指導・継続指導を徹底する。 ①-4 校長室・職員室・進路室入室や集会等において着用を徹底する。 ①-5 各学年ごとに指導計画を立て統一した指導を行う。 ②-1 職員朝礼において共通理解を図る。 ②-2 保護者や地域住民・補導センター等の苦情や相談に対して迅速かつ誠実に対応する。 ③ 年度初めには学年別に情報交換会を行い生徒の家庭環境や学校生活に関する状況を共有する。 ④ アンケートの結果により面談等を実施し、早期対応に努める。 ⑤ 事案が発生時、迅速に組織的な対応を行う。	活動計画の実施状況 ①-1 毎朝校門で5名程度の職員による登校指導を実施し、服装・頭髪指導はもとより、遅刻指導についても強化した。 ①-2 学校安全の日における登校指導 11回実施(毎月1回) 鴨島駅周辺での立哨指導 12回実施 夏季休業日中巡視(花火大会・阿波踊り等) 12回実施 ①-3 頭髪服装指導徹底率(アンケート結果から) 教職員84.7% 生徒90.9% 保護者 92.4% ①-4 日頃からネクタイ・リボン着用について徹底して継続指導を実施している。 ①-5 各学年ごとに指導計画を立て統一した指導を学年会で全体に確認しながら行った。 ②-1 職員朝礼において共通理解が必要な事項は随時連絡を密にし、意思の疎通を図った。 ②-2 苦情や相談が毎月1件程度あったので、立哨指導を実施するなど迅速かつ誠実に対応できた。 ③ 年度初めには学年別に情報交換会を行い生徒の家庭環境や学校生活に関する状況等を共有できた。 ④ アンケートの結果により面談等を実施し、早期対応に努めていたが、いじめ事案が発生した。最近いじめられたことがある(アンケート調査) 1年生(0名) 2年生(0名) 3年生(0名) ⑤ 上記のアンケート結果からいじめとされる事案は、見られなかったが、いじめが発生したため迅速に組織的な対応を行った。			

【備考】評価における「評定」の基準 A:100%達成 B:80%以上達成 C:80%未満~70%以上達成 D:70%未満~60%以上達成 E:60%未満達成

平成29年度学校評価総括評価表

重点課題	重点目標	自己評価				学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度の課題と 今後の改善方策
		評価指標と活動計画		評価			
		評価指標	評価指標の達成度	評定	総合評価		
4 人権教育並びに 特別支援教育の推進	<p>(全体レベル)</p> <p>1) 普遍的・個別的な観点から学校教育全体をとおしての人権教育の推進する。</p> <p>2) 自他を大切にす心や態度を育成する。</p> <p>3) 特別支援教育を推進し、個々に応じた支援を行う。</p> <p>(下位組織レベル)</p> <p>①人権学習ホームルーム活動の充実</p> <p>②人権啓発活動の充実</p> <p>③教育相談・特別支援教育における教職員研修の充実</p> <p>④教育相談体制の充実</p> <p>⑤特別支援の計画策定及び関係機関との連携</p>	①-1 生徒の参加体験型の活動を取り入れた人権学習ホームルーム実施回数 年5回	①-1 人権ホームルーム 5回実施	B	B	<p>・7割以上の生徒が人権ホームルームに満足しているという結果は、人権の日の人権委員への指導ができてからであろう。また、生徒達による啓発活動という点も身近な問題として考えさせるよい機会となっている。</p> <p>・保健室で悩みを訴えている生徒が多いが、養護教諭と担任との連携もうまく機能しているようだ。長期休業明けは不登校の生徒が多くなる時期である。今後とも生徒を注意深く見守っていただきたい。</p> <p>・1学科1クラスという3年間クラス替えない環境であることが、生徒達の居場所を作っているのではないか。</p> <p>・カウンセリング室が相談ではほとんど利用されていないのであれば、「生徒用会議室」など、別の用途での使用を考えてみても面白いかもしれない。</p> <p>・三年生が卒業後は支援の必要な生徒がいなくなるのことであるが、これまで培った。特別支援のノウハウを生かした一人一人に適切な指導をお願いしたい。</p>	<p>・今年度、セクシャルマイノリティについての研修会や聴覚障がい者の人権映画会を実施した。現代社会での様々な問題を研修し、教職員の指導力向上を図っていく。</p> <p>・同和問題は、人権教育の中でも中核を担う非常に重要な問題であり、まだ完全に解決していない状況である。これまで、水平社宣言や就職差別、結婚差別などを学習してきたが、さらなる深化を図っていく。</p> <p>・本校では、いじめに関する深刻な事案は出ていないが、いつ起こっても迅速に対応できるよう、今年度改定した基本方針のもと、いじめ防止等対策委員会を定期的に関き、共通理解を図っていく。</p> <p>・今後、県外からの移住者や外国籍をもった人が増えてくることが予想されるため、そのような生徒がいじめられることがないように、すべての教職員で共通理解を図り、声かけや観察を行い、すべての生徒が楽しい学校生活が送れるようにする。</p> <p>・人権に関する啓発活動を積極的に取り入れるとともに、生徒の満足度が高まるよう事前研修会や教材の工夫や指導方法を検討する。</p>
		①-2 人権学習ホームルーム活動についての生徒の満足度 70%以上	①-2 生徒の満足度 75.2%				
		②-1 人権映画会の実施 年1回	②-1 11月実施	B	(所見)		
		②-2 人権映画会の生徒の満足度 80%以上	②-2 生徒の満足度 84.4%				
		②-3 生徒の人権啓発活動への参加 ・中・高生による人権交流事業への参加回数 年5回以上 ・文化祭展示用ポスター・標語・書道作品 1年生全員提出 ・人権の日の人権委員による啓発活動回数 年9回	②-3 ・人権交流事業への参加 12回 ・人権標語提出 全員提出 ポスター(美術選択者のみ) 全員提出 書道作品は、書道部員が提出 ・人権の日における啓発活動 9回				
		②-4 人権教育教職員研修の実施回数 年8回	②-4 職員研修(HR活動研修含む) 7回	B	B		
		②-5 “あわ”人権学習ハンドブックの活用 年5回以上	②-5 ハンドブックの活用 5回				
		③-1 教育相談教職員研修の実施回数 年1回(それ以降は必要に応じて適宜)	③-1 教育相談職員研修 1回実施	B	B		
		③-2 特別支援教育研修会実施回数 年3回	③-2 特別支援教育職員研修 1回実施				
		④-1 こころと体の健康カードの活用 年2回	④-1 全校生徒へのアンケート実施 2回	B	B		
④-2 カウンセリング室の開放 週1回	④-2 カウンセリング室開放 毎週金曜昼休に開放						
④-3 二者面談・三者面談に同席(適宜)	④-3 特別支援(教育相談)三者面談 3回実施						
⑤-1 就労体験・実習協力事業所の確保 2社以上	⑤-1 就労体験協力事業所 3事業所確保	B	B				
⑤-2 特別な支援を必要としていた卒業生の継続支援を行う。のべ2社以上	⑤-2 職場訪問による継続指導2社訪問、3名支援						
		活動計画	活動計画の実施状況				
		①-1 人権教育主事と学年主任・担任との連携を図る。	①-1 人権意識調査を実施し、インターネットによる人権問題、偏見と差別、就職差別に関するホームルーム活動を実施した。				
		②-1 人権映画鑑賞によって人権意識を高める。	②-1 二学期に聴覚障がいの人権について映画会を実施した。				
		②-4 人権問題の実態から学ぶ研修を実施する。	②-4 一学期にセクシャルマイノリティについて研修会を実施した。				
		③-2 特別支援教育の理解を進めるため、研修会を実施する。	③-2 障害者総合支援法における就労支援について研修会を実施した。				
		④-1 特別な支援が必要な生徒に対しての相談活動を推進する。	④-1 特別な支援を必要とする生徒の保護者との面談を3回実施した。				
		④-2 カウンセリング室を開放することにより生徒個々の状態を把握するとともに生徒が相談しやすい環境作りに努める。	④-2 カウンセリング室利用についての掲示や、教育相談に関する文書を保護者に配布し、2名の相談を実施した。				
		④-3 みなと高等学園他、関係機関との連携・相談を図る。	④-3 若者地域サポートステーション等と連携を図り、保護者・生徒の相談を実施した。				
		⑤-1 外部機関と連携を深めるとともに、企業訪問を行う。	⑤-1 ハローワーク等と連携を深め、2事業所の訪問を実施した。				
		⑤-2 職場訪問をし、継続支援を行う。	⑤-2 卒業生の職場を訪問し、生徒の状況を確認し、事業所からの相談を受けた。				

平成29年度学校評価総括評価表

重点課題	重点目標	自己評価		学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度の課題と 今後の改善方策
		評価指標と活動計画	評価		
5 進路指導の充実	(全体レベル) 1) キャリア教育を通して望ましい勤労観・職業観の育成と自らの将来設計の構築を図る。 2) 進路情報の的確な提供による進路指導の充実を徹底する。 3) 進路先の確保並びに定着化のための指導体制の充実に努める。 (下位組織レベル) ①キャリア教育全体計画の策定とそれに基づいた取り組みの推進 ②生徒理解を深め個に応じたきめ細やかな進路指導の徹底 ③個々の進路希望に応じた進路開拓の推進 ④進路指導の力量を高めるため、教職員研修を実施	評価指標 ①-1 外部講師招聘回数 年3回 ①-2 校内・校外ガイダンス実施 年各3回 ①-3 進路補習実施 生徒の満足度80%以上 ①-4 企業見学・職場体験の実施 20事業所程度	評価指標の達成度 ①-1 外部講師招聘回数 2回 ①-2 校内・校外ガイダンス実施 校内3回 ①-3 進路補習実施 夏季休業中5日 ①-4 企業見学・職場体験の実施 26事業所39名	評価 評定 A 総合評価 B (所見)	<ul style="list-style-type: none"> 就職の業種としては、製造業の方へいく生徒が多いが専門高校での学びを生かした就職が叶うよう、さらに学校のPRに努めていただきたい。 就職試験を受ける前の企業見学は大変好ましい。ミスマッチを避け、生徒の就業意欲を高めるためにもより多くの企業に協力を求めてほしい。 四年制大学に入学希望の生徒が将来母校に帰って就職に就きたいとの希望を持っているとのこと。生徒の向学心を揺さぶり、よい循環を作るためにも是非、実現を後押しするような指導を期待する。 商業科の生徒が徳島大学の地域枠に合格したことは大変素晴らしい。地域のリーダーを育てるための重要な取り組みであると考えて、今後とも継続して取り組んで欲しい。
		②-1 保護者への説明および情報提供 年2回 担任の面談実施回数 各人2回以上 ②-2 1・2年進路ホームルーム活動の実施 年4回 ②-3 就職・進学資料の提供 年5回程度 ②-4 特別支援を必要とする生徒の進路相談 随時	②-1 保護者への情報提供 2回 担任の面談実施回数 各学期1回 ②-2 1・2年進路ホームルーム活動の実施 4回 ②-3 就職・進学資料の提供 10回 ②-4 生徒の進路相談 27名	A	
		③ 企業訪問の実施 200事業所	③ 企業訪問の実施 213事業所	B	
		④ 学年ごとに教員研修会を実施 年2回	④ 学年ごとに教員研修会を実施 2回	B	
	活動計画 ①-1 就職ガイダンス等において外部講師の活用を図る。 ①-2 分野別、職業体験型、就職・進学説明会を実施する。 ①-3 就職・進学に向けた5教科の補習を実施する。 ②-1 保護者対象の進路ガイダンスや面談等を実施する。 ②-2 「キャリアノート」を活用した進路ホームルーム活動を実施する。 ②-4 支援が必要な生徒に対し、担当教員や外部組織と連携し進路指導を進める。 ③ 新規の企業訪問を実施するなど、積極的な進路開拓を行う。 ④ 学年会等を活用し、進路指導の研修を実施する。	活動計画の実施状況 ①-1・2 5月・11月・3月に進路ガイダンス、8月に3年生の就職希望者対象に就職ガイダンスを実施した。 ①-3 3年生対象に就職・進学に向けた5教科の補習を実施した。5日間：7/21～7/27 ②-1 PTA総会後に、担任との保護者面談を実施した。また、夏季休業には三者面談を実施した。 ②-2 「キャリアノート」を活用し、就職に必要な自己PR、面接トレーニング等を実施した。 ②-4 障がい者職業支援センターやハローワーク等と連携し、就職支援を行った。 ③ 新規の企業訪問を実施し、新たに開拓した企業は3社であった。 ④ 3年学年会において、調査書の作成、面接等の指導について職員研修を実施した。	評定 B 総合評価 B ・今年度も外部講師によるガイダンスの実施や講演会を実施した。前年度は、PTA総会時に進路ガイダンスを実施し、保護者の方にも参加していただき詳細な情報提供を行うことができたが、今年度は、別の日に実施したため保護者への情報提供が十分できなかった。今後の方策として、担任を通して保護者との連絡や情報提供を密にするとともに、研修会の開催も考えながら、就職や進学について深く知ってもらうようにしていきたい。 ・学んだ知識や技術を発揮できるような職場を開拓していくために資格取得や専門教科を生かした活動等の取り組みを積極的に広報していく必要がある。 ・生徒の進路に関する意識の向上に向けて、本校におけるキャリア教育を体系的に実施できるよう全体計画と年間計画を毎年チェックと改善を行い、教職員に周知していく。		

平成29年度学校評価総括評価表

重点課題	重点目標	自己評価		学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度の課題と 今後の改善方策		
		評価指標と活動計画	評価				
6 活力ある特別活動の推進	(全体レベル) 1) 生徒会活動・ホームルーム活動・学校活性化を図る。 2) 1年生の部活動全員加入による部活動の活性化を図る。 3) 地域の環境整備に努める。 (下位組織レベル) ①生徒会活動,ホームルーム活動の活性化 ①学校行事の活性化 ②部活動の活性化と学校リーダーの育成 ②農業クラブ活動の活性化 ③自然保護の視点に立った地域に根ざした環境整備活動の推進	評価指標 ①-1 生徒会活動に対する満足度 70% ①-2 あいさつ運動実施 年10回以上 ①-3 ホームルーム活動の充実度 70% ①-4 各種委員会の充実度 70% ①-5 学校祭の満足度 75% ----- ②-1 部活動加入率 1年100%, 2・3年70% ②-2 各部主将・部長会 年3回以上 ②-3 各科での取り組みと目標 (商業) 情報処理競技会・電卓競技会・ワープロ競技会・簿記コンクール・意見体験発表大会 ・商業研究発表・簿記新人大会 3位以内 (農業) 農業クラブ県予選会において最優秀賞受賞 2部門以上 押し花アート, フラワーアレンジメント等のコンクール出展 全国入賞: 1作品以上 県内入賞: 5作品以上	評価指標の達成度 ①-1 生徒会活動に対する満足度88.1% ①-2 あいさつ運動(予定含む) 26回 ①-3 ホームルーム活動の充実度81.7% ①-4 各種委員会の充実度 74.6% ①-5 学校祭の満足度 72.6% ----- ②-1 1年生100%, 2年生74.5%, 3年生80% ②-2 各部主将, 部長会 2回 ②-3 (商業) ・簿記コンクール(個人で全国大会出場), ワープロ競技会(四国大会出場), 意見体験発表大会(3位入賞), 情報処理競技会(個人の部3位入賞) (農業) ・意見発表(分野別 生産・流通・経営)四国大会最優秀賞により全国大会出場, 意見発表(分野別 ヒューマンサービス)四国大会最優秀賞により全国大会出場, プロジェクト発表(分野別 ヒューマンサービス)四国大会優秀賞受賞, 農業鑑定競技会(分野:農芸)全国大会2名出場 ・押し花アート, 藍染め等 県内: 第25回開放美展(四国大学賞1,入選4), 第45回全国公募県手工芸展(最優秀賞1,優秀賞1,佳作1), 第6回四国大学生生活科学部生活科学科藍染めコンテスト(優秀2,優良1,奨励1) 全国: 第14回全国高校生押し花コンテスト(優秀賞1,押し花きれいで賞1)	評定 B ----- A	総合評価 B ----- (所見) ・あいさつ運動では,生徒会が中心となり「あいさつをしよう」という看板を持って大きな声であいさつを行うなど積極的に取り組んでいる。また,生徒会役員がクラスでもリーダーとなるなど,様々な学校行事において活躍している。 ・部活動入部率は全体で84%と前年度より5ポイント低くなっている。今後は,経験者の技術面や精神面の向上はもとより,初心者も続けられるよう魅力ある部活動となるためにさらなる活性化を図りたい。 ・商業科の発表や競技会については,前年度に引き続き,今年度も一定の成果を上げることができた。今後とも商業関係の部活動の活性化を図るとともに商業関係科目への学習意欲の強い生徒や成績の優秀な生徒を中心に取り組んでいきたい。 ・農業科については,農業クラブの発表大会において四国大会,全国大会への出場を決めた。また,押し花アートなどについても賞を受賞するなど成果を上げている。今後も本校独自の工夫を凝らしながら指導を継続していきたい。	・朝のあいさつにとどまらず,日中も「こんにちは・さようなら」が言えるようになってきていることはあいさつ運動の良い効果が出ていると言える。 ・させられているのではなく,自分達が能動的にしているという体験に生徒が出会えたら,社会人になった時かなり役に立つだろう。 ・今年度の学校祭のテーマは「新しい」をキーワードにしたものであった。生徒達の中にも自信ができ,次の段階を求める機運が高まってきているのではないかと。 ・学校祭において,昨年度から部活動のメンバーで模擬店をするなど活気が出てきている。リーダーを育てるという視点から「やる気」を引き出し,生徒の活動ぶりを見守る姿勢が求められる。文化祭もゆくゆくは公開できるようにするのでは。 ・部活動を始め,すべての特別活動は「誰が喜んでくれるか,何のためにどうするか」を具体化して考える良い機会である。今年度の実績を来年度にもつなげてほしい。	・今年度,生徒会が中心となりあいさつ運動を26回実施した。この活動は,生徒の成功体験につながる取り組みなので,今後とも継続し,地域住民に対してもしっかりあいさつができるようにしていく。 ・生徒のアンケートによると,部活動が活発に行われているのが70%と昨年度より大きく数字が上がった。しかし,まだ十分でないという生徒もいることを認識し,さらなる部活動の活性化に取り組んでいきたい。 ・部活動の指導において叱るだけでなく,褒めて伸ばす指導を取り入れるなど生徒一人一人にあった指導方法を考え,生徒の自己実現や達成感が得られるようにしていく。 ・生徒数に対して,部の数の多さが部員数の少なさに繋がっている。しかし,ただ部を減らすのではなく,魅力ある部活動にするための努力を教員が考えていくことが大切である。 ・今年度,農業科も商業科も全国大会出場を果たした。今後も継続していくため,生徒に目標をしっかり意識させ,やればできるという自信をつけさせる指導を徹底していく。
		活動計画 ①-1 生徒が自発的に活動し,学校生活の充実や改善について指導する。 ①-2 校門であいさつ運動を毎月実施する。 ①-4 各代表生徒を中心に鴨島駅周辺・通学路の清掃活動等を生徒が主体となった活動を実施する。各環境委員を中心に地域の方と連携し,江川周辺の環境整備活動を実践する。 ①-5 生徒会を中心に企画立案した学校祭を開催する。 ----- ②-1 部員を積極的に勧誘し活性化を図り,女子運動部の入部率を向上させる。部活動紹介や勧誘方法を工夫する。 ②-2 各部主将・部長を中心にルール・マナーの向上を指導させる。 ②-3 各部による活発な競技活動の展開を目指す。プロジェクト発表及び意見発表について,専任の教員が担当する。各顧問等の指導によりアグリクラブでの質の高い作品作りを展開する。	活動計画の実施状況 ①-1 朝のあいさつ運動,球技大会,各種大会壮行会等を生徒会が中心となり実施できている。 ①-2 4月3回,5月3回,6月3回,7月2回,9月2回,10月3回,11月2回,12月2回,1月3回,2月3回 ①-4 校門前でのあいさつ運動は毎月実施している。地域等でのボランティア活動等は,生徒会役員と環境美化委員が7月12日に校外清掃活動を実施した。ボランティア部等の生徒が,江川周辺の環境整備を行った。 ----- ②-1 4月に部活動紹介を実施したが,今後とも各顧問が積極的に声かけを行い,勧誘していく。 ②-2 年度当初と総体前の2回校内外での生活,大会出場時や応援時のマナー等について指導した。 ②-3 簿記部・情報処理部等による商業に関する競技会では全国大会や四国大会出場に出場した。また,農業クラブにおける意見発表とプロジェクト発表は,県大会を勝ち抜き四国大会へと駒を進め,意見発表の2分野は,最優秀賞を受賞し,農業鑑定競技を合わせた4名が全国大会に出場した。押し花アートや藍染めは,上記のとおり全国2作品,県内12作品が入賞した。				

【備考】評価における「評定」の基準】 A:100%達成 B:80%以上達成 C:80%未満~70%以上達成 D:70%未満~60%以上達成 E:60%未満達成

平成29年度学校評価総括評価表

重点課題	重点目標	自己評価				学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度の課題と 今後の改善方策
		評価指標と活動計画		評価			
		評価指標	評価指標の達成度	評定	総合評価		
7 防災・環境教育の推進	(全体レベル) 1) 自他の生命を尊重し、健康の保持増進と安全・防災意識の高揚を図る。 2) 新学校版環境ISO認定校として実践を推進する。 3) 食の安全・安心の観点からの教育を推進する。 (下位組織レベル) ①安全教育の充実 ①効果的な防災教育の計画・実践 ①有効適切な防災避難訓練の企画と展開 ①適切な保健管理 ①自己の健康管理能力の育成 ①適切な健康相談活動 ②節電・節水・ゴミの分別の徹底 ②校内の美化 ②正しい農薬散布の徹底と事故防止 ③食育の実施	①-1 防災に関する情報提供 月1回 ①-2 避難訓練 年3回実施 ①-3 防災クラブの活動 年7回以上 ①-4 保健だよりの発行 年8回 ①-5 各種講演会の実施 年3回 ①-6 健診結果を通知 随時 ①-7 心身の健康に関する保健調査 年2回 ②-1 電気・水道の使用量が、前年度を下回る。 ②-2 毎日の清掃に取り組んでいる。 83%以上 ②-3 学校はゴミの落ちていない整った環境が保たれている。 85%以上 ②-4 毒劇物・農薬使用の軽減 前年度比10%削減 ③-1 食育通信の発行 年1回 ③-2 食育関連講習会の実施 年3回以上	①-1 防災に関する情報提供 月1回 ①-2 避難訓練 3回実施 ①-3 防災クラブの活動 7回 ①-4 保健だよりの発行 7回 ①-5 各種講演会の実施 2回 ①-6 検診結果の通知 4～7月通知 ①-7 保健調査実施 2回 ②-1 電気の使用量 前年を下回る 水道の使用量前年約23%上回る ②-2 アンケート調査 生徒 88% 職員 91% ②-3 アンケート調査 生徒 71% 職員 93% ②-4 必要最小限度にとどめている。 ③-1 食育通信の発行 1回 ③-2 食育関連講習会の実施 3回	B	B	・今年度は防災士の資格取得に積極的な生徒が増え、希望が多かったことは非常に喜ばしいことである。 ・校内の炊き出し訓練でも、フードロスをなくすなどエシカル消費の視点が活かされている点も評価できる。量販店や観光協会もエシカル消費を進めているので、相談すれば今後の取り組みの参考にできるのではないか。 ・ハイゼックスを使った校内炊き出し訓練を日本赤十字社の方にご指導いただいた。身につけた知識や技能を地域や保護者の方、アグリ・スクールカフェのお客様と共有できる機会を設け、知識・技能の定着を図った。 ・水道量の使用量が前年度より大幅に上回った。以前からの漏水が悪化したためか、他に原因があるのか、解明を急ぎたい。 ・毎日の清掃活動に真面目に取り組んでいる。その反面ゴミが落ちていたり、ジュースの汚れがついていたりしていた。ゴミをきちんとゴミ箱に捨てる、汚れたら拭き取るという行動が常時とれるよう指導していきたい。 ・健康診断の結果通知により家庭での健康力向上につながった。また、各種講習会では、生徒が熱心に取り組めた。 ・家庭総合での食生活の学習として夏季休業中の課題の料理レシピの作成は、家族で食事について考えるよい機会となった。食文化交流を通して留学生と共に調理する貴重な経験ができた。	・昨年度に引き続き、県の事業で防災士の資格を6名の生徒が取得した。この資格を有効に生かし今後、本校が災害時の緊急避難場所として運営できるように地域の自主防災組織と連携し様々な活動を行っていく。 ・昨年度、生徒の備蓄品を購入したことで、防災クラブに本校の備蓄場所や備蓄状況をしっかりと把握させ、災害時にどう行動すればよいかを日頃から考えさせる取り組みを行う。 ・食育については、家庭科教員や家庭クラブが中心となって発行している食育通信がある。内容は盛りだくさんで充実しているが、文字が多く読むのが大変である。家庭科教員にお任せでなく、農業・商業の教員も食の安心・安全を伝えるとともに今年度行ったエシカル消費の取り組みも掲載しながら、よりよいものにしていく。 ・清掃活動において、企業が実践している「3S活動」を取り入れるとともに、なぜ必要なのかを理解させ、実践することにより生徒自身の美化意識の醸成に繋げていく。
		①-1 防災計画を周知徹底すると共に、防災情報を提供する。 ①-2 防災訓練の実施及び避難経路・避難場所・危険箇所の確認をする。 ①-3 学校内外で活動を行い、その活動内容を報告する。特に、地域住民との炊き出し体験を実施し、地域と連携を図る。 ①-4 保健だよりを発行する。 ①-5 心肺蘇生法講習会・歯科保健指導等を実施する。 ①-6 保護者に検診結果を通知する。 ①-7 保健調査を実施し心身の健康問題を把握する。	①-1 防災計画を周知徹底するとともに、防災に関する書籍や講演を紹介した。 ①-2 HRで地震発生時の対応の仕方や避難経路、避難場所、危険箇所を確認した。また、防災ハンドブックを配布した。 ①-3 夏季休業中に防災に関する研修会に参加し、6名の生徒が高校生防災士の資格を取得した。地域防災訓練では9名が参加した。また校内炊き出し訓練を実施した。 ①-4 内容は生活習慣、胸骨圧迫、熱中症、歯周病、インフルエンザ予防等 ①-5 心肺蘇生法講習会、薬物乱用防止教室を実施した。 ①-6 各健診ごと1週間以内に保護者宛に通知した。 ①-7 就寝・起床時間、朝食、友人関係等の調査を行い心身の健康課題把握に努めた。	B			
		②-1 水道量・電気量の月別の使用量をグラフ化して掲示し、節電・節水の呼び掛けを行う。 ②-2 年2回、生徒・職員にアンケート調査を行う。 ②-3 クリーンデイの実施と環境美化委員会による清掃活動を行い、状況等についてアンケート調査を行う。 ②-4 適正な農薬散布を徹底する。	②-1 前年度と今年度の水道量・電気量の月別使用量をグラフ化して掲示した。また、節水・節電のシールを貼付した。 ②-2 清掃活動や学校環境について生徒・職員にアンケート調査を行った。 ②-3 クリーンデイを定期的の実施した。また、環境美化委員会による清掃活動を実施した。さらに生徒会と連携を図り地域清掃を実施した。 ②-4 最小限度の農薬散布が徹底できている。				
		③-1 食育通信の編集方法に工夫を加え、より効果的に啓発を行う。 ③-2 食育講演会やPTA研修活動・家庭クラブ活動で食育に関する講習会を計画し、食事の重要性を呼びかける。	③-1 吉高祭で食育アンケートの結果や食に関するホームプロジェクトの展示を通して啓発を行った。 ③-2 夏季休業中に家庭クラブと徳島工業短期大学留学生が調理実習を実施し、食文化の交流をした。				